

## ●町内ハザードマップ作成

### Q.

9月の定例会で議員から防災マップに関し「東豊地区のみならず、市内全域の各町内会のものを作り、市民の防災意識を高めてはどうか」との質問が有りましたが、必要なことと考えています。各町内会程度の範囲の防災マップを、町内会が自ら作成する様に市が働きかけてはいかがでしょうか。

既に〇〇町内では町内会が独自に、「大雨になったらどうする“〇〇町内”防災マップ大雨洪水編」を作成し、広報と一緒に全世帯に配布いたしました。参考として1部添付いたします。

作成するにあたり、市や県や国土地理院等の標高データ、ハザードマップ、町内排水路、大雨時の中田川の映像、水位、当時の雨雲のデータ、標高等の調査・確認が必要で時間がかかりますが、データが揃えば無料（オープンソース）のGISアプリを使用すれば安価に作成できます。ちなみに今回のハザードマップは印刷代の71,500円（税込み）で防災協会の補助がありますので実質50,000円程度で済みました。

当然ですが、地域安全課、維持管理課のご協力をいただいています。自分達で、自分の住んでいる町内の防災マップは作成できます。

（令和5年9月受付）

### A.

御承知のとおり、東豊地区の防災マップにつきましては、令和4年7月に開館した「東豊コミュニティ防災センター」建設の関連事業として、国の補助金を活用し、作成したものであります。市が全戸配布したハザードマップより、詳細な情報が記載されており、このような地区別のハザードマップを全地区で作成することで、地域防災力の強化に繋がるものと感じておりました。しかし、東豊地区の防災マップを作成した際は、多額な経費を要し、他地区での作成は難しく、市のハザードマップの見直しを行う際に東豊地区の防災マップも参考とし、よりよいハザードマップになるよう努め、全戸配布を行う予定としておりました。

この度、お手紙を頂戴し、〇〇町内においても独自のハザードマップを作成したことが分かり、私も拝見させていただきました。過去の水害時の情報や中田川水位観測の情報、防災情報に関する各種サイトの紹介なども盛り込まれ、〇〇町内の皆様にとっては、大雨時の行動や対応において、とても参考となる素晴らしいハザードマップです。さらには国土地理院等の標高データやGISアプリ、既存データなどの活用を図り、様々な工夫によって安価で作成されたことに感銘を受けました。

市といたしましても、〇〇町内のハザードマップ作成の取り組みを優良事例として、自治会等に出向いて行っております防災講話において紹介させていただき、作成について働きかけを行ってまいりたいと考えております。

今後、〇〇町内の防災マップを参考に作成を希望する自治会等があった際には、是非、作成に関するノウハウをご教授いただけたら幸いに存じます。

近年は、災害が激甚化しており、いつ新発田市に災害が発生してもおかしくないと言え

ます。災害は、私どもが行う「公助」には限界があり、「自助」、「共助」の部分が大変重要でありますことから、この度のように地域防災のためにご尽力いただいたことは、大変心強く思っております。

(令和5年10月18日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。